



## §1 YAMASHO STYLE オリジナル商品「キングカルシウム7」

今年も猛暑が襲っています。9月以降の気温も昨年同様に残暑が厳しくなると予想されています。農作業を行う人にとってはもちろんですが、植物にも暑さは大敵で、エネルギーを余分に消費したり、高温による障害など生育不良が起こり、収穫量や品質に悪影響を及ぼします。そのような中で今回は、カルシウムの役割と、そのカルシウムを効率よく補給するための資材についてご紹介いたします。

作物にとって必要な栄養素は必須元素と呼ばれ、全部で17種類あります。それらの中でも窒素・リン酸・カリに次いで必要なものとしてカルシウムが挙げられます。



### 【カルシウムの主な役割と特徴】

- 1) 細胞壁などの材料になる  
⇒新しい細胞を作る・根の伸長促進・植物を丈夫にします
- 2) 生長の盛んな部位(新しい芽や根、果実)で必要とされます  
⇒水とともに根から吸収されるが、体内では再移動しにくいいため、継続的に吸収できないと欠乏症が出やすい
- 3) 病害抵抗性に関わる  
⇒水耕栽培でカルシウム濃度を高めた結果、トマト青枯れ病や萎凋病に罹患しにくくなることが確認されています
- 4) 猛暑により起こる障害を軽減する  
⇒カリウムとともに、気孔の開閉の調整を行い、蒸散によって植物の体温を調節します  
⇒活性酸素の形成を抑えることで、植物へのダメージ(ヒートストレス)を軽減します

### 【カルシウム欠乏による主な症状】

トマト:尻ぐされ、いちご:チップバーン、ハクサイ:芯ぐされ、ネギ:葉先枯れ、サトイモ:芽つぶれ 等

【山正オリジナル商品: 高バランス総合微量要素剤「キングカルシウム7」の内容と使い方】

カルシウムの他に、マグネシウム 3.0%・ホウ素 0.3%・水溶性マンガン 0.1%・鉄イオン 0.13%をバランスよく含む液体肥料です。カルシウムを与えるだけでなく吸収効率の向上や光合成促進等の相乗効果が期待できます。土壌灌水で10aあたり1~3ℓ、500~1000倍希釈液を葉面散布にてご使用ください。

## §2 もしものために 猪・熊撃退スプレーのご紹介

今年は春先から熊による被害が多く発生しております。熊との接触による人的重大被害に遭わないようにするためには、熊に合わないようにするのが一番です。しかし地球温暖化の影響や森林伐採などにより熊との距離感が近くなり、平野部においても、農作業中や自宅の車庫で遭遇・・・なんてことも多発しています。これから秋にかけて、熊もますます食欲旺盛になり出くわす確率も上がります、万が一のリスクを軽減するために、熊スプレー装備が必須と言えます。弊社でも同資材の取り扱いがあります。信頼と実績のある種類を用意いたしましたのでご要望は、担当者までお問合せください。



## § 3 2024年 GPEC にて「イチゴプロジェクト 1200」を紹介

2024年7月24、25、26日の3日間、東京ビックサイトにおいて「施設園芸・植物工場展（通称：GPEC）」が開催されました。この展示会は2年毎に開催されており、施設園芸と植物工場を専門に扱う国内唯一の展示会で、今回で8回目を迎えました。園芸施設本体・資材、付帯設備・機器、生産管理機器・システム、流通・加工・包装、業務効率化提案・機器などが展示されており、今回も1日目4879人、2日目5697人、3日目5685人と合計16261名の入場者があり、大変盛況でありました。

今回は、弊社も初めて出展させていただきました。現在取り組んでいる「イチゴ PROJECT1200：イチゴの観光農園で1反1200万の売上実現」の紹介を、佐藤産業様のブースにて実施しました。イチゴ農家様をはじめ、他の作物を栽培している方でイチゴ栽培に興味のある方、企業での農業参入を考えている方、大学等で研究を実施されている方、行政関係で新規就農支援の担当者等々、様々な方に興味をもってお話を聞いていただきました。引き続きのコンタクトさせていただきます。お立ち寄り頂いた皆様には感謝申し上げます。また、今回の出展にあたっては、佐藤産業様にご多大のお世話になり、展示ハウスの設営・撤去を含め、本当に良い機会を与えて頂きました。



### <イチゴプロジェクト1200>とは？

設備や資材の供給・栽培指導を実施する「山正」と、実際に観光農園を運営し、研修・見学会の実施や苗供給を実施する「アグリモンスタースペシャル」と、白イチゴの育種元で品種改良や密植栽培技術を提供する「Agritec-Plus（アグリテックプラス）」の3社で取り組んでいる事業になります。

1反1200万の売上の実現するために、イチゴ栽培に適したハウスを設置し、独自の栽培システムである「MBS：モニターベリーシステム」を利用した浸透圧栽培法により、イチゴの生育をみながら、収量と味をコントロールします。そして、AIによる現場解析で、収量予測だけでなく、入場可能者数を予測することで、収益の最大化を図ります。また出荷においては、白イチゴなどの品種を選抜し、海外輸出の販路を見据えた出口戦略の構築をグループで見据えております。また、農園でのGlobal-GAPの取得の支援も実施します。

このプロジェクトにご興味のある方は、HP または担当者までお問い合わせください。

[https://yamasho.style/?page\\_id=905](https://yamasho.style/?page_id=905)

